

[掲載紙] 読売新聞「レンゲツツジ」

[掲載日] 2015年8月16日

[テーマ] 家族と新生活 支えに感謝

前橋に赴任して2か月が経過した7月末、市内の病院で、次男が誕生した。私と違って、目鼻立ちの整った「イケメン」である（親バカの発言をお許してください）。

1年間の米国滞在から戻り、半年あまり取り組んできたプロジェクトが無事に完了して一息ついていてある日、上司からねぎらいの言葉とともに、5月に「どこかの」支店長になるから準備するようと言われた。

日銀に勤めて25年。全国32の支店の長を命じられることは非常に光栄なことである。ただ、長男を妊娠しながら東京で働く妻を残しての単身赴任生活を終え、日本橋の本店に戻ってきて、親子3人での生活によりやく慣れてきたところの、再度の異動話である。

長男はようやく1歳、そして妻のお腹^{なか}の中には次男がいる。産科医不足が著しい中、出産を引き受けてくれる病院を見つけるのも難しいのではなかろうか。いろいろと考えながら、11か月ぶり再度の単身赴任を覚悟していた。

内示により、上司が「どこか」と言っていたのが前橋支店だと判明して、状況は一変した。

前橋市の人口10万人当たりの医師数は、全国の中核市以上の都市の中でトップレベル。医療環境がきわめて充実していることを、本店の産業医から聞いた。

今度は単身ではなく、家族で赴任できるかもしれない。その産業医から頂いたリストの電話番号を片っ端からかけてみたところ、引き受けてくださる産院が見つかった。出産前後に長男を預かってくださる保育園も翌日には見つかった。

病院と保育園が確保できた時点で、我々は前橋に家族で引っ越すことを決めていた。前橋に移ってきてから、いざという時のベビーシッターやかかりつけ医の確保、赤ちゃん用品の調達、ネットスーパーの申し込みなど、考えつくあらゆる準備を行った。

この間の妻の頑張りには感謝している。その頑張りに応えるべく、私は、「イケメン」の先輩たちから貴重なアドバイスを頂き、実践することにした。

可能な限り外出せよというのが、頂いたアドバイスの中の一つ。次男が生まれたらしばらくは外出が難しくなる。そこで、出産直前まで時間のある限り、3人で県内各地に出かけることにした。「ぐーちょきパスポート」(※)を片手に、その地の名物を食し、群馬の生活を大いに楽しんだ。出かけた先で、ベビーカーから身を乗り出す長男に、声をかけてくださる方々がたくさんいたことも一生の思い出となった。

ここで書き連ねることはできないが、この2か月間に、既に多くの方からたくさんのサポートを頂戴した。大変感謝している。そのご恩に報いるためにも、これまで得てきた経験を、この地で生かしていきたい。

(※県が県内在住の子育て世帯に発行しているカード。協賛店で提示すると割引やプレゼントなどのサービスを受けられる)

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕